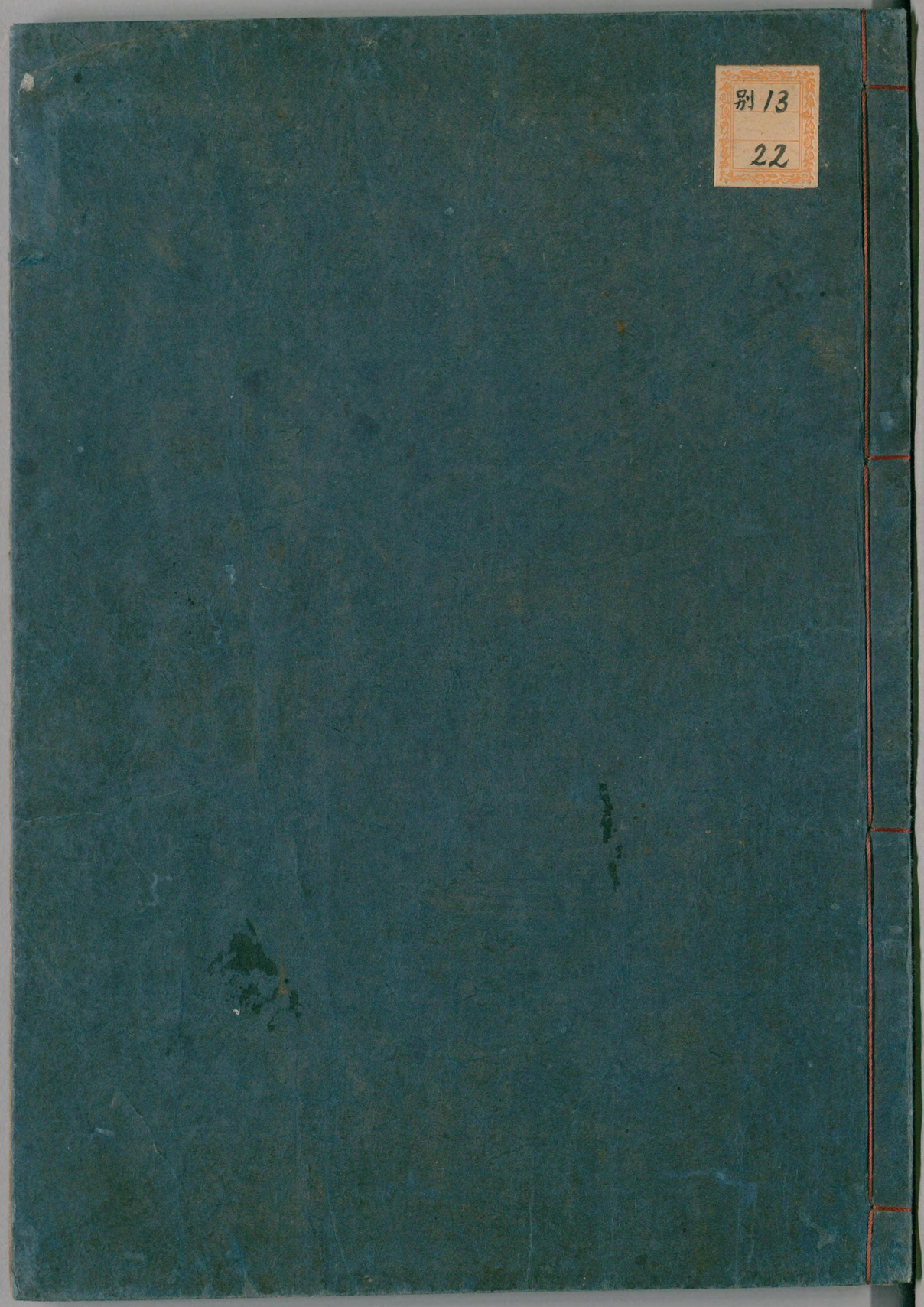


国立国会図書館　　タイトル『あつもり』　請求記号　本別13-22

ガラス使用

別13-22

あつもり

国立国会図書館　タイトル『あつもり』　請求記号 本別13-22

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『あつもり』 請求記号 本別13-22

ガラス使用

平家うとまをさそいよのきたゝ物と見えしゆ
田うゆ法りのをいうあり者とおほしめす武蔵
乃國のちうゆん志のこうれをこうしらくま
うへ乃ゆうなる我さ〇うゝ紀よをひくいふき
かゝきはそまきなくもうゝ紀り羅れあけ
まきさうりて我こうせ給ふそのうれひゆせし
法せうふうへいふくとそをつかけやあら
いさいしやあ川りりくまうへとさうしめし
のうまりくさ出ほしめされけまたあまま
法りせそ落さうせ給ふう里を人とうろよろう

きのおきを法師すまほ法座ゆまうちうくう
うんてありまのふ〇我まの孫紀らせのらふき
そのとおほしめしこしまをくまる井ふ日
あしうゝあふきねきいてたゝ里とひろうせ
給ひく　おきまうふ〇をめよかけてひろ里
くとまの孫う家しせんちう乃人をうしひく
志毛しそおかきふうとまきあいたらんしそ
おろうけむしやの私まの孫くいたさ馬おかゆき
りりうむ兄ん乃太史あ川りりうあまをみよ
しの清ちやうあり恵七兵衛形りこふなたりよ

あつもりこのよし我は落んしくいやしくこの
ひま我をようせてあのふしのらふすその
とおほしめしこまの者かかいろて海上
にうろひくう夷ぬ志門こぬをようせらるし
いくいしやあつもりらうひしやゆくましま
さんさん清りのりさう門くとさしくしゑを
こそこ海りく清ひまへいらもりあり我され
由産私にるんなくひまへ清くなきにわりむ
しやのかるしさへひまにたるれてうれりし
とおほしめされきろなひこ海へうさにのり

国立国会図書館　タイトル『あつもり』 請求記号 本別13-22
ガラス使用

無くさう乃あふこをはらく姫こまつかにを
うり給ひこう義ね志川こねをようせらる
馬いちこうとはまりせたらむかこにせられ
はくをよきかゝてそ見こにきうくまうへ此
よし彼見まいらせまきなの平家やおきれは
座ふゝはちうかにをとをこそはしまうを
なこう物あらふしていてうなりせ給ふ色き
ひのうへしはせうふあまさなきはなるう
さしをまいらせんとゆことゝ矢をうらはうて
そし海川こうの美りあ川りんゝ落んしてなす

くさひ矢に村あそられ一こんのなぎりと
思ひこ海乃まつれ鶴川うへ志こと彼あさに
なり志りはこ川まりもんとけこそそめもの
うふらうらはうひううとそ志いし給ひけき
あ川さゆこ矢をさしたけてひくと紀い
西寸事をはしううそこきこ
くまうへもあるあるうとりまてあ川ト思ひ
さう乃あふこをけたる川て返与と拘かし
らくうくたらり
いさはき乃ちやこ川まんとおそひしに

国立国会図書館　タイトル『あつもり』 請求記号 本別13-22

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『あつもり』 請求記号 本別13-22

ガラス使用

なるりさをつきまかやくまゝ人ハ文武二道
乃めいしんとこそこさくつゝ行ゝとそ合戦ま
かうなき事をは卩そまきまゝハ下乃てう
しんとしうんかくの座数にはらなつて鈴音
くまぎんのみりまちやうしゝりし方なり
しうたあの二三ケ年冬一門れうんはきてい
ち後あとうまおしまりこのうさふしれいさ
めりかうをはあらくゝ此くゆそまへれ名家
といふハたりひのちんりむらかいくさ
みさまの御りかう矣なさえひらをあしり

はけはたなきうち我わきそれくあまきんん
ちやうそのくにのなかしうまうしと名家
てうちのゝせう梅我しゝ又くんてせうふ我
まんまうとこそさくつゝりまハうゝ紀ま
おきへられしこゝよる里名家かうとはいまこそ
此くゝ人あふ心ぬたりくまゝ人名字をなの
らせくひをとりくるんちゝ志りれきけいか
見せんこめな　よしくそませ世ゆはうれ
そあるましきそこくそまうしゝくひをおく
なんちゝ志りのきけいりこせよ見志の事

国立国会図書館　タイトル『あつもり』 請求記号 本別13-22
ガラス使用

をあり為しそれかうしらぬ物なるもうれ
くれ三やは見せしとん　かたのくれしやう
見しうまはこのそひ平家のいけとりのいう
かとおかくあり為きは引むけて見せてとん
そまきかうしらぬものなるはなきこのく
くひそとおりひてくさむらうしをてとけよ
すそく乃はい屋うをなし鯨岩とこそ給けま
くまうん取く梅いしらういかしれいさめう
かうをはくりくいしろしめられぬや世なり
そのうち五里まうあくいきこれ御さまさ

のうく男をたすまんとまはれ親とあらそひ
子とたかひそうさん御ことのこ御うい
かし乃なしひるり　花乃をとの事目れうく
月乃御人の一歌れとも世いふうらう事の花花
落葉乃たれ如きも今生なりわきこんと兼ね
あのさひれ合戦ま人志をこそ抜かきふくま
うんかありあふ夏をせん世の事とお願し
思し御名家御人御くひを給くうく事云れを
ちうふ後世をとふらひ申し　あ川りりき
御石なのらこそのとは抜りへ先あ務をさりん

そうましさふさうもの冬あくまうす夜しまき
をはこまとう思ふらんかとまきれ候ゆきり
の三るんかいまさむくまんいかりなまて夜
あけりり廿年ゆ十六歳(さい)いくさあ元うもしめ
なりさのこそ　そのかゝろのそよくやくひ
とれやくまうへよ

国立国会図書館　タイトル『あつもり』 請求記号 本別13-22
ガラス使用

くまうへうけ後の所にさそ名上らうい
くまんむ乃は正志まそは産ありきりやるに
は年は十六さいるにかしかちやくしれ
に於ける是年十六さいすまりるり扨い
は同年すまひけりやかりくなきに於ら
こめまろくまくろくるさけこしらねあ川ま
ひもと思へ生我子とおもへ其後ん也あら
むきんや亜家る後ざほりろとも今約一れ若
乃をふ手まそうこれ後まいの三郎かたる川
矢をな後いへかゆんまのうひるにうけちめ

なにかしにむ川く矢ぬいてこへとせし
後いこてかうすてうと同ちやと母りひしり
いやくくまうへかとれゆしとりかうさ
みうこ乃まの両へにくとふ面きうとおとひ
ちんこそにもんてあらゆいまうひ其の亜家
やそほか大事なるそそこすてたらをこれ
又うすほまそあるなるはうこれとあふこ討
志に後せよ　妹方乃陣を拵とし志のこうれ
名をしくこするといひてあまは両もしそと
母りひるにかしかかて後ろく一目見うこれ

十三

国立国会図書館　タイトル『あつもり』　請求記号 本別13-22
ガラス使用

ゆんこやうはあれうりなまはとそ子年をたりちさそ万年乃ようひかやまれこれ酒語りにこまけやさちやと思ひるふいりにあれそり平家田こまそおもせらうるき事也我愛乃くまうへとやそのとるこうちきんまそくこ名くんてけへとも見うこのなく我いへはおもひうへこすけやこうりとは酒うこうけへとこれくひの立こそまうりこうろひは付こうちりちちちひ　るにたきのせこそまうりな我さまことにむまりのりかしをさひこ

大町ちうりゆきまきうしろをきんこそあまはをはまんし乃大将よめうこ酒ふち升ん三川升よつめゆひのもこさうせ又百騎計てをんうくうゆん手をこそあまは戦田ひら山ひうへこうめく乃まさまはとひとの七騎てをんうくるうへ乃山ふ九郎はさうしこうこをさし　せはそんしよにかつてい我愛前無愛我こちちうへそん悲打かこをう伴勝駿河この人こをさ紀とこしこしくこしゆ為うむさしの乃くまうへ　是かしこきとくんはう

国立国会図書館　タイトル『あつもり』 請求記号 本別13-22

ガラス使用

同ことなくさし上をかのやうなる熊谷を
東西我たちてなる紀ゐるとり　くまうへなること
をとゝめ法たひ我かなることなるこへをしうと
うして見さてまつ門まはこまろひのひさあるせ
ようんちくの屋うてう我たちんのいへり
我ち里紀我そへうさく連たり又められ里紀
をこそあまはまきこの一くまん招まします
もいなかなりらんと我らいてもいをん仕に
あらいさりしやあ門りりのこやとおれこと
乃義我くれしくところあそもしけ連此そこ

こやこふ法座乃法時いあんせん志の大網云
まけうさ乃きゆうのひめ君十三まなうせ給ひ
志りて下一乃ひ志んりて西しまれ我仁和尚
おむろ乃法志よまて居るこのくまをん此さ
しと紀あ門りりい姫えの屋く招ましかく
こまてこくひき給ひし法まうさを一めこし
よりあひと成く　うさ可よこ姫こうりさ
と法うそのふこかすのうさなりてあふせの
なりとなり給ふ中三日とアリ面いけてい
そのくまらくをさ門くさいういれたうま

国立国会図書館　タイトル『あつもり』 請求記号 本別13-22
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『あつもり』 請求記号 本別13-22

ガラス使用

をりとかき　とゝめてそなられ是ゝ　うまを
見あまを見えてまゝ門なかいとくなるこそせさ
あへ　を法ゝ　ハ　ハ即誓ふあ門けを紀法首
梅えまきこのとまふをこせ大ね此法ゆへすし
ゝりしよしくとゝあくゝ判安法滿んして
あらかしきやあのふえハるふしゝ乃ん志ゝ
さしゝのはそまをゝふとゝ一とせゝ
くゝ乃こや法むかんくまこそ此時こ下まふ
ゝさせこをまとて二くまんの筆ありせこをれ
をは三升寄りてみゝくすゝ家ゝうしゝ海

なりてえゝこをはゝさいてさゝくゝせ給ふよし
こけゝ海りゝうこゝなせくまうこゝやうせんまて
こゝまさゝせ給ひしときゝ此海え平家此手に
海り一門乃をなりまふえまきよう殘めされ
志ふ志やくまんなまとをあ門りゝ海えふこ
ようゝ乃人也とてくさされをゝと義ゝ　けさ
一乃なふのこゝ里屋く志よまて筆此と殘言
乃こゝこゝ志ハ此人のふきをゝかとて大将殘
をなりさせ給へ　知もあらぬをしるへく
なるやうにこをそなりしをゝ　あ門りゝハめい

国立国会図書館　タイトル『あつもり』 請求記号 本別13-22

ガラス使用

かやうにわれはしほ海へとおもむくらんと
してあまりのはかなさをきかんさらにひやう
ぶ海の御門めのおかりにまいりてなきさや
あらそひにかくりまてわまはとそしまもさいくさ
まはるこゝろえまいらせしやくなくりけさもや
とおもひあさ盛のきみにかくり小松一そう
しらん次のきみ二人まゐらひ一人あひさく
勝どきあさくめ八嶋のいそにあそとくられ
けり平家はさんぬるけんりやく元年二月七日の
のさかひをうちまけたまひしよりこのかた

三月のころまで八嶋のいそにすみ給ひしが
まくらの上をならし月夜のむらくもにうちて
はくうらみのさの事なれはなにをおもひくる
うきふねのうへにはとらめ大将んあけくれおほせ
ありこの色のくまかえくまいるさうしにて
おもはくおもひをいはうしまきとのうきうらうらの
伊賀の平内左衛門のせうとのへたてにふる
のはとかきうらにまた〳〵ありさいはし
や平家はひとつの都をはなれしいたつらの浪
の上にたゝよひまし〳〵しのちいたうる

色しとそ花風しめさきす　兵庫種のかう氣
ゆけ　るさきさうゝかう花　ゆめ花ころかな
きろ乃ゝ鈴　いのらもしゝね酒つゝゆこと
うきて酒や思ふらんそろかそく招かせしは
深氏のゆひよとゆた我さ紀すしくそろかい
我さやめ女らゆけとも東國此きんしすしあ
りんといるろ色いけるし　大臣あ御覧しそ
ふくなりさしく世さきこうさふ乃ゝ時
まろかうまきすといふさとへい異國此さん
ゝまいゝ後てのろうりとまゝかきかし此小和

ふなふかと乃妻しのあるゝそこきゝあり
ゆきむ月ゆゝ酒ひきとありしとき平内
左衛門ゆゝそんすりみりいゆゝまりりゝん
と座かさ乃うらへ浦つとふゝひそ川その
月乃ゝやうそくハさな座りすしそ見ゝすし
けきさゝふけゝろきうさ起ゝみな志つおゝ
引ちうへかちん乃雅ひされの四此くりを
ゆりくとよせさせやうさいたう里此さう
乃ふまひやくさんみうきのす絲あてよ志く
ふなさんのさいさそしいしひおとし此鎧

乃至の時とかく屋くをまさうえと門ゑひ
さそくさすりなるゝ下さろくと長ゆゑ上
却ひらゆうと志めれ寸又ふんれしのろひと御
我めて乃ま紀下さいたりタ一尺八寸れ
かのさ子十文字まさすまくに三尺八寸ひ
まらしやくとう作り此こうらひてあしうら
志ほしまちまきし志らえのる紀るさを
清えよつきまれまとらぬ即おともを七八
人あひくしたしふほふしうらのりたりて
おこそを志とませさしめうひてをしよすう

たんくまいりいきなひもあふ一くやとおりひ
志らまそあり　拾源氏宮よりをくまうへう
まさくし乃清りひとハそを御事の子面をや
なくり乃そのやさんはあ門りりを慈苦うほ
りうけやあまりはいさりしきふよ門ゑは
志らいまいろ〳〵の義を此又ハ志ん志やうを
あひそへ先辺なくりやてはいそ紀は寛ふほ
ふはうろしあまとやそとくふ中ゑくあらふし
きやあ門をりハ一門のはふほまめされあえ
乃ゑりとふ南しますよしを兼くはう屋ハう

うゝ連さうせ給ふ為きりしゆけりまそやゆ
らんなくり乃者ゆ清海志んはしらり海くしと
いけりをはさゝ舩中を清海んせよと申基風
ゆくきかしくあきはいはゝ連こりとそなくり
乃ふ口ふ目り舩をなしよせなきゝをさ清え
ま清き　なくり乃舩越さしこけふひてこそ
ゑきまは無ふといろしく乃ぬいこの志ゝり
起こ連ゝしあけりけ此清志りと抱同しき絨
なし清こそそをきまきり　むらさ紀すそ
あの清きせるり　こう孫清ゝりけ清たり世

十六さいゝり　そめもの矢　むら志けとう
乃弓もありまゝふとゝ乃出海しまさまもと
くふ雉り乃出るしさふるきゝをからるもと
まそをくり乃ふ孫ふのりうりり清志りいふ
いうき川きるけ左さゝふなゝこるしさけ通
とゝこしあいてさりきり基國ハ
なゝこをるしゆ座ういこりしやこのきこ
乃一の苔を清いくの財あのきせなりをこ
まゝ清り知と而し座りふあけりけいけしう
清一門世りゝふましくて空海ゝし風此知こ

国立国会図書館　タイトル『あつもり』 請求記号 本別13-22
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『あつもり』　請求記号 本別13-22
ガラス使用

あく迄かり　盛にこそ又清盛かりけりハ拙かり
なさけ乃證本とするところをあらむきうんやあ門ころ
一乃おりふしを制しときおハゝのかく誠見なくり
こころおもそけりて立平かりしをいさめなやと
思ひあらふかくなかりとよあ門かりよ　三代
くまいもん乃家をもちるまきかき孫を野山ゆり
門と名を北天のくを許まあへ色き角ゝ
郎ホ乃ころ同をえちもとしといふそあき
まもうぬ辞まてなききすてくころ志りふえ
をまぬれてはしそとりよ輪りしも時とゝれ

うへらんと拙すひはまゝもろこしみくさま
なし庵そてられ又二めともみえさりしなれ
ともきけあつくまうへそかしみ　あまきて
なくりこりむかしきあいあのうしろえれふへ
門あまさ技のあけさ後まきよううわ
てなくさまんるふ人さとの給ひはくこえ人
あろまを給ひまり平家うさのへてハ今一二お
乃みこゝなり　平家くまうへ内にゝろ状を
めいうし大将るまは状をうけ義經へもし
まくりてあつうはうひハ是非をまきにあへす

とからんやうんきよのちきよをきめしつく
はかりしひ城鎮んあろうしとふらひゃ為き事
聞てしいりり後ぜうくまるくはあのをこ
むれをこれ法一こんのは中へは技(ひらう)あり
あくはよりに五帽漢云まんつまやく元年二
月七日むさしのくにの住人熊谷は法ら巫宮
進上うしまきとのくはうらるしの伊賀は平田
ちまつ射とのへとふふうり

一

法一門うんうゝまいしやうとうねんよあんと
ぜんし給ひ来にや熊谷の堂(ぐんじ)図ゆくいあかう
雖せつ忍ひするんとゝ法ゝ人しりなさけ者
ふりかり来らそや　ふんしやうのこ所しや
さよ筆せいのいつくしさよかりと聲うしき
法ゝのよ返状なくてうなりしと大臣殿為ん
ゑやう我法ひりの自筆りあそんしてこふ
法りひいふゝを給りいそき一此者よあき
そとりくまうへとのにこせゝそまの所ら熊谷
いうんとしてゆゑ夫此　こやうなくしてゝ

雖(子ゆり)威乃法自筆を拘うゑかさんと三変いこさ
ひろいてもいまん法りまゝ法りその法書りし
いまゝ　あ所もりう志りいなしひよゆいとう
給りり読此こうひくまらくを打立しゝ事此
うさなんそ二変因ひ返す変此あるんや　さ
うんるりのなとろふるもむ志やう此なるむ
あへるものよりうるゝ事しゑと此なるひ
志やくそん雖こ雖てんの一子此まれり
あらすや　いそんやかんふをやさんあり七日
小打立しゝ事以来　法もめきて聞くこらん

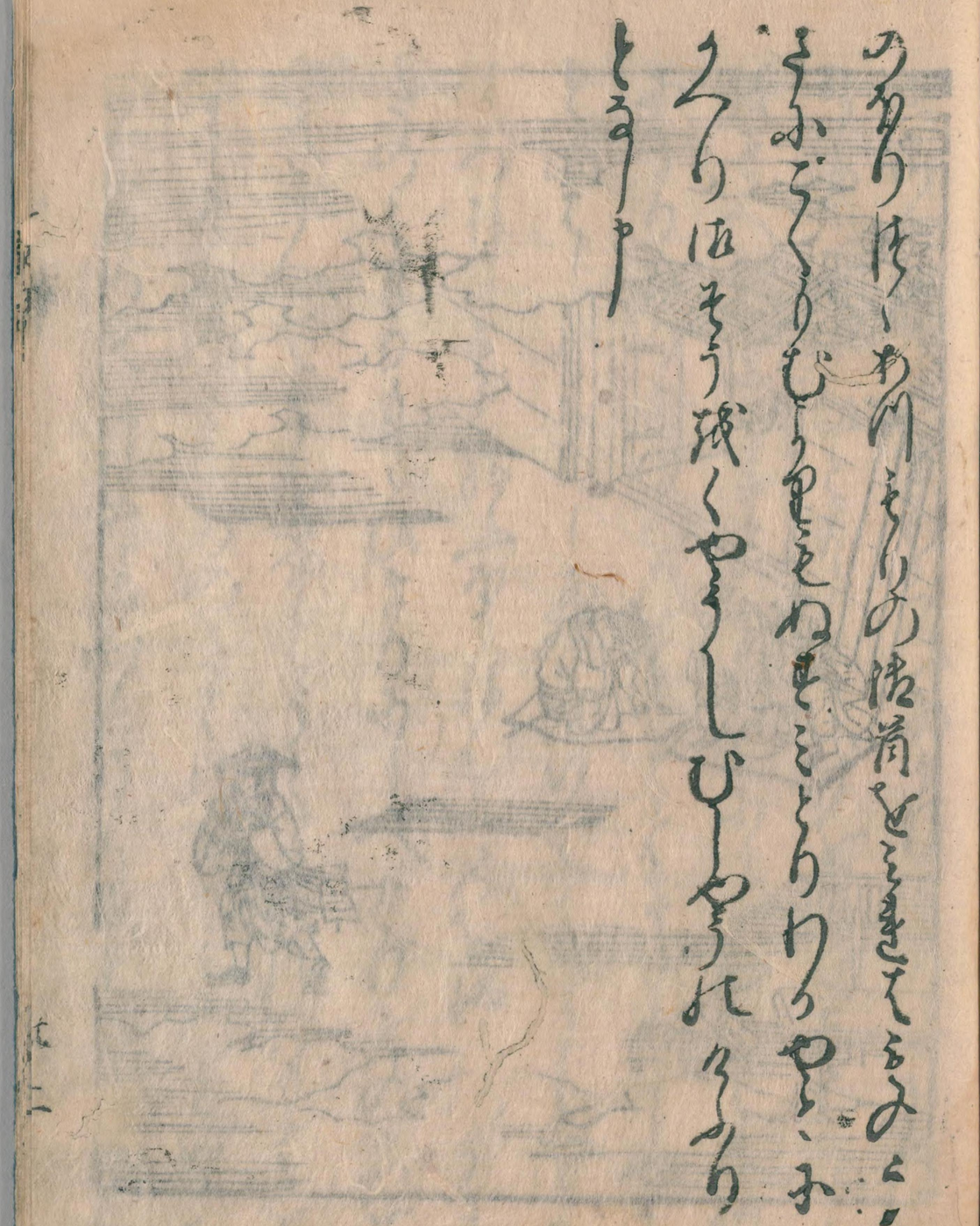
三十

とまきりこをみて　きうんはまさ紙はら孫
てらふ小和と法達を頼りといへとそのこ恵を
きうす　さまは法ゆいせさの　さう海かし
きふよりて　天ふあふき地りしあまを
りのう神明のなふ志もふんこの威遊をまり
さらふよりて七日うち小あま紙こう内
あはしんしをいうしかう小は威波そそを
起さすよりて生まきこまりしあへりき
志つ乃ちういなくしていいくそのまりこを
一こひ思んすこまこふう志西これいこたき

ひきう志えまうかい　南あさしすらんこも
をかうせんとす事は通玄和んくこり志り
そさこそ為んとす事は来来なうくこう酒
かもんこんお願しといへと筆紙りしかし
かこしこ小ひさしの熊若れ入し状とそふ
こり要ろ　志程ふ熊若よくくこそあまは
かこひ乃ふそ和こり要ろ今月十六日ふさね
きの八幡をせめらう為しとせくありまれも
人をうきふなりう為こうう拙うき目まを
又な波さ孫やあそすらめ田へも此世ハ法

乃ちこかにあらすらさ蒙にさとくしらぬ西の
に屋くる月の夏の程あ申しさんあるすしさな我
しいししいくるいさ紀とまくむしやうれ風
りさそりくなんらうの月我もてあそふ
峯を月にさ紀たれくるのくえにくまり
人きん五十神んけてんのうらをくらぬまた
ゆめ西不渉しのしとくなり一度しやうをうけ
めのせぬそのくあるあきうあまをかくひれ
た孫と我りひさくめさるんさくらおしうり
き次才そと我りひさくめいそきこやこり

のあり法くあれそりの法首をこまきてこみ
さにぐくりむら里をぬまことりわりやこに
くりはそう我くやうしむしやうれくなり
とるし申



国立国会図書館　タイトル『あつもり』 請求記号 本別13-22
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『あつもり』 請求記号 本別13-22

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『あつもり』 請求記号 本別13-22

ガラス使用

くてまんしやう黒谷にろうきよし志やう
詳ん会佛中ていたり志りあり紀ん志やう
そろ乃うちに田ふ屋うきのくにに清立あり
高野山へ来らちやと思ひ上人に清ゆとまゆ
ぬこ乃ふちをひうこにうけこのむこめ志行
乃ぬえ　黒谷我まこ紀をこめていくまろう
こやこいて乃名所ひし我なりむまに
せいかんしいまくま雅まよこ川屋さり是不
当枝きよこ川とゆいさりのていれゆくん
志よまこと乃さう曰村まりのゆこん

里う　こひとう二年ゆたてられよこれ
初とけ乃くまんこ里をせんしものちひい
このりしやあ川りれ志やうるやうとんせし
初こひと思ひうして　西をなりむまこうん
ちに出ひのやまよ出りくらにこれこうこ孫
乃こう　きこを洞こ見をくれた　うち雅我
けてこまんこい野　ふなをり屋まれ　こう
志るし　こうりなこさもせきあへ寸面を
ありむまはそうしさいし田塚とし名ゆけ
こそおひもせめむ川あうりこうらなりめ

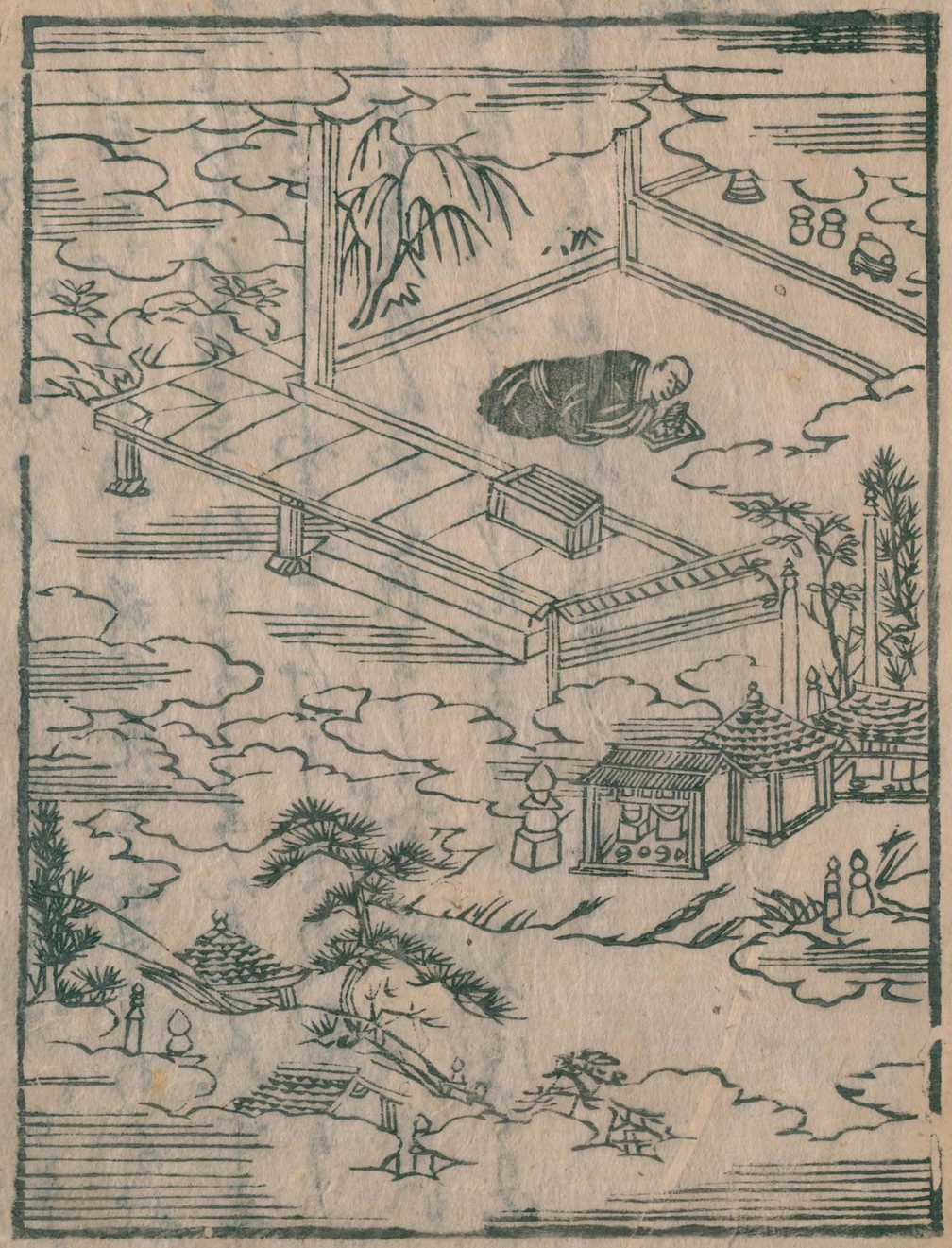
国立国会図書館　タイトル『あつもり』 請求記号 本別13-22
ガラス使用

山さ見たりてゝせきとのゐんをうらゝきさ
屋ちさ乃やまを下向してあれうのみこれ
法かりせしうさのくちうをと得りきん屋れ
きしハ子をおりふうと野に志けききせうき
乃屋とを見まはしくうのちうくか川れまう
しをみしおうこ天王寺屋そまのりまう
てんまうしきとゝかゝ有賀城太子の法ぐまんなりせ
みしきの君さ後あうハ掬りともつき寸間し
鷹井乃あのあるまたぬそたりとかりまう
とみしおうこうひこ天野にまりう家ゝ大物

狩とゆハ高野乃ちんしもて無しまの寸間山
に法神城さ川けくたちせさ後へと称んあり
きせいゆてちやう野山へ糸らるくうしけ
なくこ高頭山とゆ名ていせいをさんて二百
里きやう里をちるまひみんきやう八えう此
三孫八川乃たにかくとしてきしたりしせい
らんこまゑをあらせと夕月乃りけのとゝ也

あふかのてらよるとみるいこうれ若くらいこうう
ういの大日百八十そん我為うせりさて又大
こうよりしぬくのぬんへ毛毛大日れ三十
七そんを為うせりこんこうのかんそんなめ
志ゆくかうしやうこと釈迦あき又大師れ出
作るり大こうと申いるんてんのてらたうを
両なんてとそのてんのさんぬ里をかさとり十
六丈乃かうたうこいふこいれなこと申いい
子志也乃二十八両志也志を菜師の十二祢
志やうく世こうきいなく成生あく志よれ

波盛

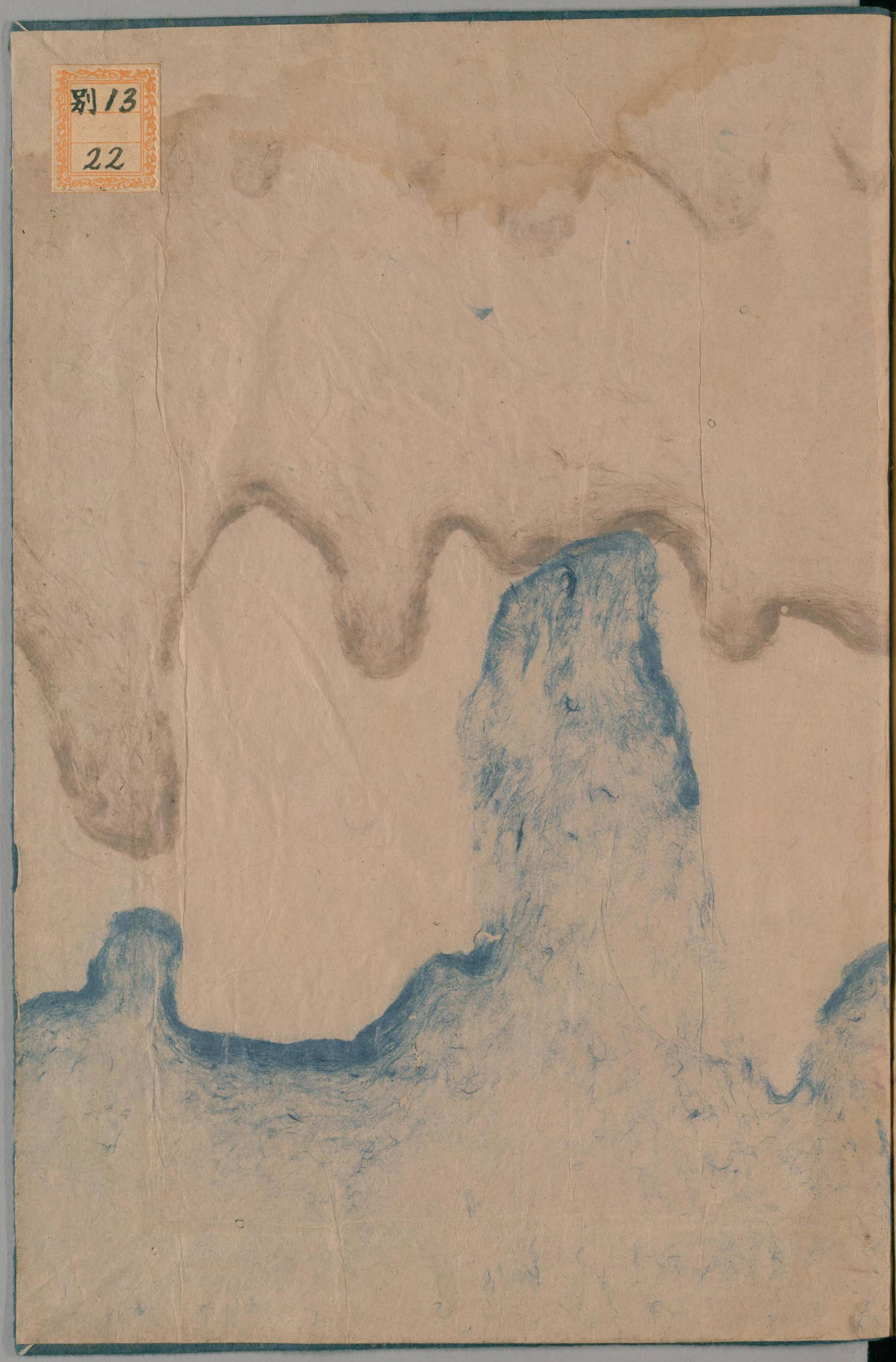


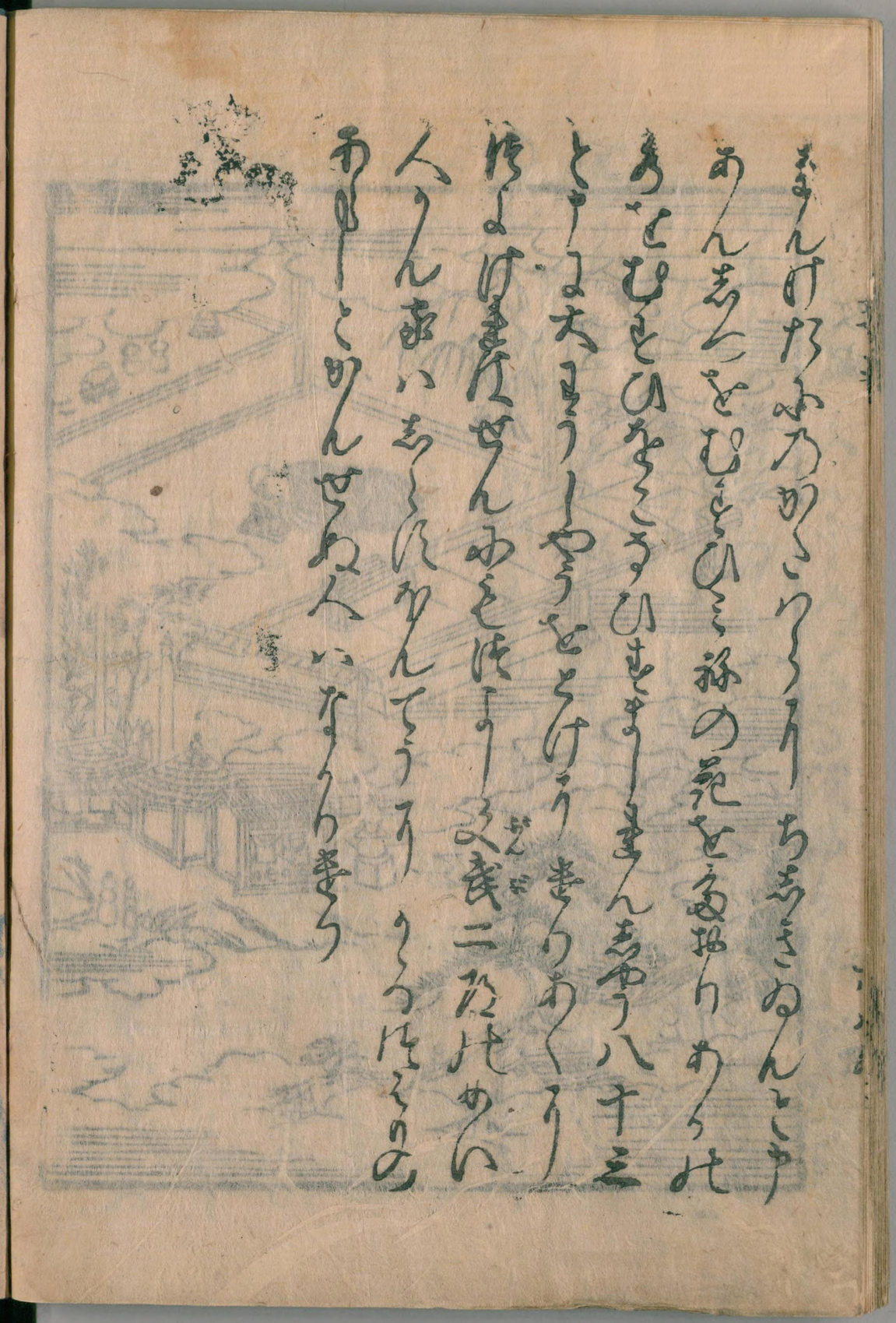
敦盛

国立国会図書館　タイトル『あつもり』 請求記号 本別13-22

ガラス使用

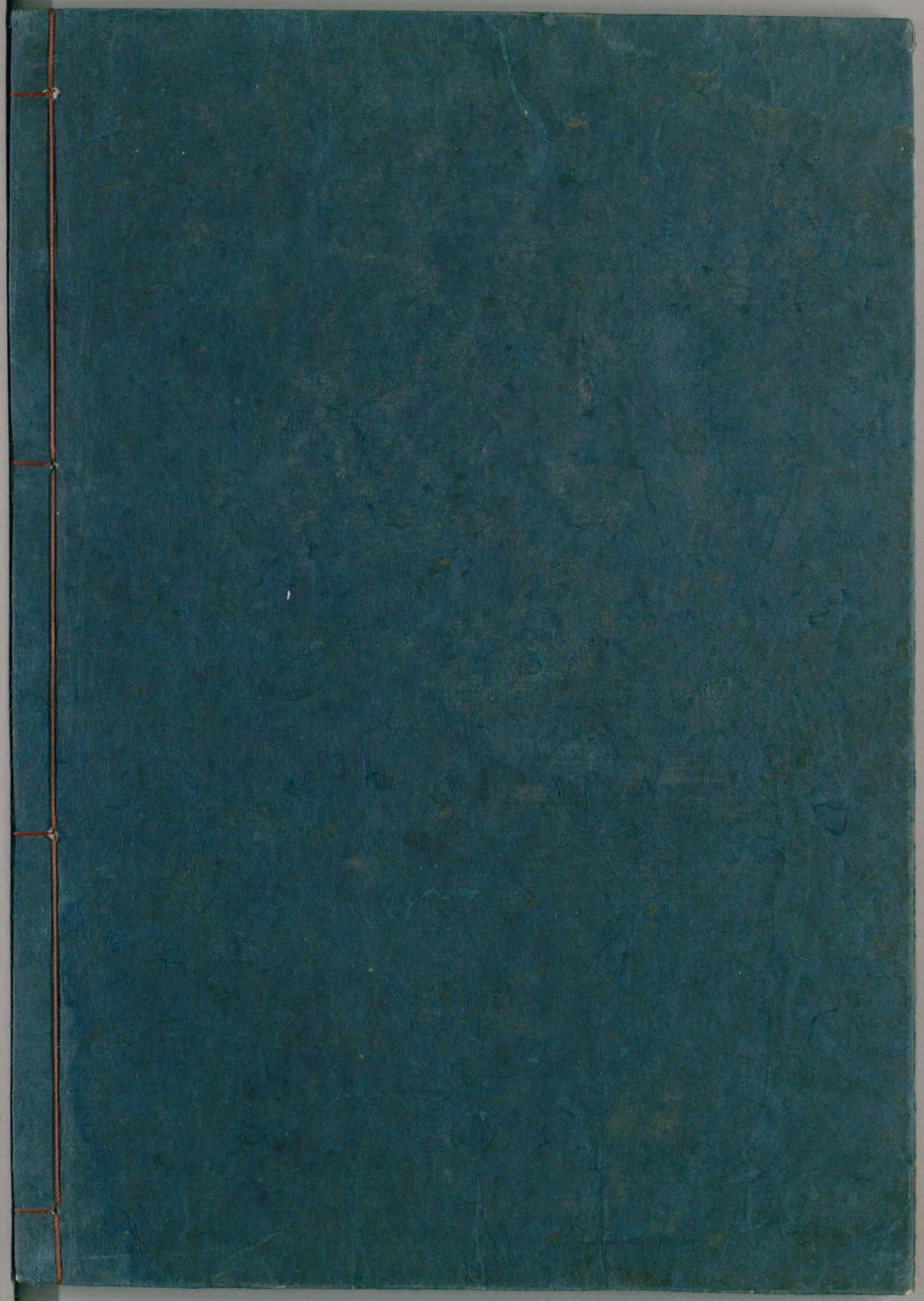
別13
22





国立国会図書館　タイトル『あつもり』 請求記号 本別13-22

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『あつもり』　請求記号 本別13-22

ガラス使用